

### Pick up イベント

### シネマ哲学カフェ『怪談』(小泉八雲原作)

シネ・ヌーヴォーで映画を観たあとに映画が問いかけていることについて語り合うシネマ哲学カフェ。参加者から、「なるほど映画が共通言語になるわけですね」という印象的な感想が飛び出した。テーマについて語る哲学カフェよりも、言葉の意味を共有しやすいのは、やはり映像という核があるからだろうか。

今回は小泉八雲の名高い『怪談』を撮った作品を取り上げた。内容は「黒髪」「雪女」「耳なし法一」「茶碗の中」を寄せ集めた短編集。立身出世のために田舎の妻を捨てて、金持ちの娘と結婚して國の守として生活する。しかし、昔の妻が忘れられずに出世を捨てて家に帰る男。旧家は廃墟になっているのになぜか元の妻と逢瀬することができる…どこかで聞いたことがあるストーリー。翌日、白骨化した遺体と黒髪が男を脅かし、化けの皮が剥がれたように老化しつつのたうち回る男…聞いたことがある結論のはずなのに、気持ちの悪い感じが残る「黒髪」だった。

なぜ男がのたうちまわるシーンをこんなに長く撮ったのだろう？

解答は話すうちになんとなく出てきた。「男が昔の家に戻るまで長い時間があったのでは」。なるほど。ということは、女との逢瀬はあくまで男が描いた美しいストーリーで、その瓦解と彼の人生を支配した「後悔」に再び直面したわけだ。「それで最後に水面に映った男のカットで終わるわけですね」と、謎が解けて嬉しくなる。

映像を解釈するのは難しいけれども、発見の瞬間ほど楽しいものはない。無数の発見が待っているシネフィロは僕の楽しみのひとつになっている。

(報告：中川雅道)

日時：9月13日（日）12:05～17:35

場所：シネ・ヌーヴォー／喫茶ケルン

進行：森本誠一



シネ・ヌーヴォー：大阪市営地下鉄「九条」駅より徒歩3分。

#### ▼シネマ哲学カフェとは

本当に観たいと思う映画を、良い環境の中で観る…大阪の九条にある映画館シネ・ヌーヴォーは映画ファンには堪らないところです。日曜の昼頃上演の映画を観たあとに、「いかにも大阪」な九条の町を少し歩いて喫茶ケルンに行きます。二階の貸し切り部屋につく頃にはさつき観た映画はなんだっのか、話したくなっているはず。今まで取り上げた映画は『蟹工船』、『空とコムローイ』、『ピアノチューナー・オブ・アスクエイク』など。コーヒー片手に映画評はいかがですか？

【西川勝】

熊楠が研究していた粘菌は、植物のような動物のよ  
うな不思議な生物。カフェフィロの魅力も、対話を樂  
しむ動的なものと、文章を読む静的なものとの間を自  
由に行き来すればいいと思っている。

この〈テツドク〉に十一月九日、ぼくが南方熊楠  
をテーマに話すことになった。南方熊楠を知らな  
い人は、まずその名前をよむことからつまづく。「み  
みかた…くま…くすのき？」「なんぼう…くまな  
ん？」これらは、実際に、ぼくが和歌山の南方熊楠記  
念館で耳にした戸惑いの声である。正解は「みなかた  
くまぐす」。でも、熊楠に英語を教えた高橋是清も「な  
んぼう」と呼び間違えていたらしいから、気にするこ  
とはない。

昭和三年大阪生まれ。平成十五年大阪大学臨床哲学博士前期課程修了。長く看護師として働いてきたが、平成十七年より大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任准教授。得意技は醉。

メンバーコラム

粘菌化するカフェフィロ

西川  
勝

カフェフィロは、哲学カフェを主体とした活動を開してきた。コーヒーの香りと、普段とは違う対話の時間を楽しむ哲学カフェの人気は根強い。しかし、最近のカフェフィロは、もう少し違った試みにも手を伸ばし始めている。その一つが、〈テツドク〉だ。「毎回一人の哲学者・思想家・宗教家とその文章を紹介し、参加者同士で対話を楽しみながら理解を深めるのがテツドクです」という案内文があるように、哲学カフェよりは、もう少し教室や研究室に近い活動だといえる。この〈テツドク〉に十一月九日、ぼくが南方熊楠をテーマに話すことになった。南方熊楠を知らない人は、まずその名前をよむことからつまづく。「みな

## 哲学カフェ『専門家ってだれのこと?』

日時..八月十二日(水)

場所..アートエリアB1

進行..小菅雅行

京阪なにわ橋駅構内「アートエリアB1」にて開催している中之島哲学コレージュ。八月十二日(水)開催の哲学カフェ「専門家ってだれのこと?」には、お盆の時期にもかかわらず三十余名の方々が参加し、熱い議論を戦わせました。

議論は専門家という言葉の辞書的な意味ではなく、日常的な場面でのこの言葉の使われ方を手がかりに展開してゆきました。「何かを専門にする人」と「専門家」とはイコールではなく、「専門家」とは『何かを専門にする人』の中のさらに一部を指す」という意見が軸となり、議論は進行しました。

専門家であるための条件としては、以下のようないふものが挙がりました。

- ・その分野を職業にしている人(単なるアマチュアではなく、それで生計を立てられる人)

- ・他人から専門家と認知される人(自称専門家でなく、周りから専門家として認められている人)

- ・権威を持つた分野を専門にしている人(マンガや鉄道ではなく、芸術など高尚な分野を専門にしている人)

- ・その分野についての実践ではなく、研究を行っている人(芸術家は専門家ではなく、芸術について研究している人が専門家)

- ・挙がったこれらの条件についてはそれぞれ賛否両論があり、議論が戦わされました。研究といふ点についてはさらに議論が進み、「実践家も研究は行うが、それはあくまで実践のための研究であり、専門家のように研究自体に重点が置かれている場合は区別される」という意見が挙がりました。



京阪電鉄中之島線「なにわ橋駅」地下構内に設けられたアートエリアB1。中之島哲学コレージュでは、哲学カフェや書評カフェ、公開セミナーのプログラムを提供している。

### 【中之島哲学コレージュ】

八月十二日 楽山アートエリアB1  
哲学カフェ

「専門家ってだれのこと?」  
進行 小菅雅行

八月二十八日 楽山アートエリアB1  
哲学カフェ

「スーパーで何を買う? 買わない?」  
進行 深田千晃

九月九日 楽山アートエリアB1  
哲学カフェ

「辞めることは責任をとることになるか?」  
進行 桑原英之

参加者の半数以上が発言し、活発な議論が展開されました。専門家について考える上で今まで気づかなかつた観点に多く触れることができたため、進行役である私自身にとっても非常に有意義な哲学カフェでした。(報告..小菅雅行)

## 2009年8~9月活動一覧

- 8月12日 哲学カフェ「専門家ってだれのこと?」 アートエリアB1 小菅雅行
- 8月16日 シネマ哲学カフェ『激戦の昭和史 沖縄決戦』 シネ・ヌーヴォー 中川雅道
- 8月28日 哲学カフェ「スーパーで何を買う? 買わない?」 アートエリアB1 深田千晃
- 9月 2日 <テツドク!> 第4回:鷺田清一「〈聴く〉ことの力」 さする庵 高山佳子
- 9月 9日 哲学カフェ「辞めることは責任をとることになるか?」 アートエリアB1 桑原英之
- 9月13日 シネマ哲学カフェ『怪談』 シネ・ヌーヴォー 森本誠一
- 9月15日 哲学カフェ「常識とは何か?」 神戸市北区子育て支援センター 松川絵里
- 9月19日 哲学カフェ「先生は生徒の知っている以上のことを教えることができるか?」 とよなか国際交流センター 中川雅道
- 9月19日 哲学カフェ「辞めれば責任をとったことになるのか?」 Klein Blue 寺田俊郎
- 9月20日 哲学カフェ「資格とは何か?」 コーヒーショップJUN 武田朋士

### 賛助会員募集中

カフェフィロでは、カフェフィロの活動に賛同し協力してくれる賛助会員(年会費3000円)を募集しています。会員の方には、『哲学喫茶』最新号と、『哲学喫茶 瓦版』(隔月発行)をお送りします。詳しくは、info@cafephilo.jpまで。

#### CAFÉ PHILO (カフェフィロ)

2005年、大阪大学・臨床哲学研究室のメンバーを中心に発足、哲学カフェ、哲学対話セミナー(こども/大人対象)など、哲学の対話を促進する活動を展開中。

〒560-8232 大阪府豊中市待兼山町1-5 大阪大学文学研究科 本間准教授室内

e-mail : info@cafephilo.jp http://www.cafephilo.jp

哲学喫茶瓦版 2009年10月25日発行

発行人:本間直樹 編集・デザイン:井尻貴子・松川絵里

